



# 学校だより 神橋

令和3年9月1日  
横浜市立神橋小学校

9月号

## 「大好きなことを見つけて」

校長 判治 珠美

緊急事態宣言中の分散登校はありますが、長い夏休みと臨時休業が明け、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。私は夏休み前の朝会で、「博士ちゃん」というテレビ番組を例に挙げ、長い夏休みを使って、自分の好きなことや興味のあることに取り組んでみよう、という話をしました。子どもたちはそれぞれ、どんな夏休みを過ごしてきたのでしょうか。

今年は1年延期になった「東京オリンピック・パラリンピック2020」が開催されました。今回のオリンピックは、「サーフィン」や「スポーツクライミング」など、新たな競技とともに、若い世代の活躍が話題になりました。中でも「スケートボード」の「パーク」に出場した、開心那（ひらき ここな）さん（日本最年少選手・12才の中学1年生）の活躍は驚きでした。勢いのある、ダイナミックなスケートは爽快で、何より、とても楽しそうでした。心那さんは、5才から地元の北海道でスケートボードを始め、コーチによると「飛び抜けた運動能力があるわけではない。滑り続ける才能があった。だからどんどんうまくなった。」そうです。「滑り続ける才能」とは、スケートボードが大好きで大好きで、いくらやっても飽きない、ずっと続けられる、ということでしょうか。

もう一つ、私がこの夏に出会った本に「自閉症の画家が世界に羽ばたくまで」（石村和徳/石村有希子・著、石村嘉成・絵、扶桑社）があります。生き物が大好きだった自閉症のお子さんが、画家となるまでのお話ですが、絵を描き始めたのはなんと、高校3年生になってからということでした。生き物の絵を描くのが大好きで、エネルギーがあふれるように1日8時間も描いているそうです。

子どもたち一人ひとりに、それぞれどんな才能が眠っているかわかりません。いろいろな経験をする中で、得意・不得意や好き・嫌いなどに気づいていくのでしょうか。そして興味のあること、得意なこと、大好きなことを見つけて、打ち込むことで、花開いていくのではないかと思います。また、周りの大人がそれに気づいてあげることも大事です。

さあ、今日から前期の後半が始まります。子どもたちがいろいろな経験を通して、主体的に楽しんで学び、活動する姿、そして自分のよさや友達のよさに気づいて高め合う姿を目指して、がんばりたいと思います。緊急事態宣言下、また残暑の中、感染症や熱中症の予防に改めて努めてまいります。ご家庭や地域のご協力も改めてお願い申し上げます。

7月号でご紹介しました「よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト」の本選が夏休み中に行われ、6年3組の谷村 陽奈さんが区の代表として参加しました。見事「審査委員長賞」を受賞するとともに、「よこはま子ども国際平和プログラム 子ども実行委員」として、教育長より委嘱を受け、国際平和にかかわる活動をする事となりました。